

補給、源泉ナル台湾ハ領キ、更換ト共ニ物質入年上多大、割約
ヲ受テ部隊渾身ノ努力ニ抱漸ク杜絶ヲ予想セラル、状況ニ在リ、
悪性マラリヤ、猖一厥也ニシテ患者續出シ作戰勤教上ニ多大ノ影響
及セリ

(五) 終戦ヨリ歸還迄ノ行動概要

終戦後直ニ現地自活作業ニ従事昭々、一、二、四、歸還ノタメ
石垣島出発

(六) 其ノ他部隊経歴中特異ト認メラル、事項
ナシ

以上

(甲五章節)

戦史資料

獨立混成隊五十二旅團司令部

一、部隊名及部隊復歴ノ概要 部隊長名

船舶固走通信隊隊員ニ大隊ヲ二中隊
昭和十九年四月四日石垣島出発 今年一月十一日石垣島之陸
爾今石垣島ニ在リテ船舶輸送ニ伴フ通信連絡ニ従ス
昭和二十年十二月十四日復員シタノ石垣島出発 今年十一月
二十九日浦賀上陸ス

部隊長名

陸軍少佐 道野四郎

陸軍少將 宮崎武造

一、指揮系統關係及其變遷ノ概要

内地出發以來才三隊長ノ指揮下ニ在リテ勤務アリ
一、奉命ニ重責ナル作戰(戦闘)ノ概要 死傷増進

昭和二十年四月以降、終戦迄敵機ノ猛烈ニ銃撃下ニ在リテ
通信勤務セシモ死傷増耗ナシ

一 給養衛生

給養ノ燒身ニ至ルニ部隊石垣島ニ依テ所ノ給養ヲ受ケ
戦鬪激烈ニシ極ムルニ従ヒ糧食減少セシモ現地自造ニヨリ甘藷
ヲ生産シ食糧ノ補給シセリ

衛生 現地に着キテ、衛生ニ注意シ、全員ニ素直感ナシモ

昭和十九年十一月始ニト、全員デンブ靴、ノタメ、冬靴ニセシモ約二月
ニテ全員快復セリ

昭和二十年八月九日、ワマリヤノタメ、相次ニ冬靴ニキニテ、教團
再発セルモ、十月、下旬快復爾後、健康ナリ

一 終戦ニシテ帰還途ノ行動概況

終戦後、刻續キ船舶輸送ノ進行ニ伴フ、通信連絡ニ依ルモ
昭和二十年十一月八日、終戦後、通信機材撤収ノタメ、連絡ヲ終止シ

通信器材ヲ師團通信隊ニ返納、爾後、専ラ現地自治ニ力ヲ
注キ増進ス

昭和二十年十一月二十四日、復員ノタメ、石垣島出發、今年十一月

二十九日、浦賀港ニ上陸ス

一 其ノ他部隊経歴中特要ト認メラルル事項
ナシ